



練馬区民合唱団

第24回定期演奏会

2016年2月28日（日）

14：00 開演



杉並公会堂 大ホール

ごあいさつ

本日はお忙しい中を私どもの演奏会にお出かけ下さいまして、誠にありがとうございます。団員一同心から厚く御礼申し上げます。

昨年創立 25 周年を迎えました。引き続き、気持ちも新たに 5 年先、10 年先を展望しながら楽しく、向上心を絶やすことなく、心を併せて声を合わせる練習活動を進めております。

プログラム構成は、例年通りの 3 部から成っています。第 1 部は、「レクイエム」、「ハ短調ミサ曲」と並んでモーツァルトの教会音楽を代表する名作として親しまれているミサ曲です。生き生きとした表情に富んだ曲です。素晴らしいソリストの方々とオーケストラに支えられて歌います。第 2 部は、5 年前の東日本大震災と福島原子力発電所の事故発生という未曾有の大災害に、深い悲しみと怒りをもって創られた合唱曲に挑戦します。東日本へのエールと復興への思いを歌い上げることができればと思っています。第 3 部は恒例になっておりますが、長年に亘って歌い継がれてきた懐かしく、美しい日本の歌です。皆さまよくご存じの曲ばかりですが、なかなか言葉遣いや表現が難しく苦労しました。

私たち一人一人が心から歌う喜びを感じながら、歌います。

皆さまへの音楽の贈り物となれば幸いです。

練馬区民合唱団
団長 鍋田隆章

練馬区民合唱団の概要

<沿革>

- 平成 2 年 3 月 合唱団設立 結団式（練馬区によって創立）
（設立時から平成 23 年 4 月までの常任指揮者：国立音楽大学教授 長井則文）
平成 13 年 4 月 練馬区運営から自主運営に移行

<現在>

- 指揮者 永井宏（国立音楽大学 教授 平成 23 年 7 月より）
- 副指揮者 清水新
- ボイストレーナー 永澤麻衣子、牛津佐和子
- 団員数は約 100 人。
- 団員の 80% が練馬区民か在勤者です。
- 運営は団員による自主運営が行われています。
- 納涼会、忘年会、その他の懇親会等が随時開催されます。

本年度の主な活動

- 平成 27 年 3 月 22 日 創立 25 周年記念 第 23 回定期演奏会（練馬文化センター）
5 月 17 日 練馬区春の合唱祭参加（練馬文化センター）
9 月 16 日 敬老会ボランティア出演（大泉特別養護老人ホーム）
10 月 25 日 練馬区秋の合唱祭参加（練馬文化センター）
11 月 1 日 ハイキング（高麗）
平成 28 年 2 月 28 日（本日） 第 24 回定期演奏会（杉並公会堂）

プログラム

I. Missa in C KV 317 (戴冠ミサ)

Kyrie
Gloria
Credo
Sanctus
Benedictus
Agnus Dei

W.A.Mozart 作曲
(モーツァルト)

指揮：永井 宏
ソプラノ：盛田 麻央
アルト：斉藤 真歩
テノール：小林祐太郎
バス：狩野 賢一
管弦楽：コンツェントゥス・ムジクス東京

・・・休憩・・・

II. 混声合唱とピアノのための 「つぶてソング」第1集

1. あなたはどこに
2. フルサト
3. 放射能
4. 燃えあがろう
5. 許せるか、あなたは
6. 誰もいない福島

和合 亮一 詩 新実 徳英 作曲

指揮：永井 宏
ピアノ：江本 裕美

・・・休憩・・・

III. 混声合唱による 日本の四季 「夕やけこやけ」

春の小川
春の歌
背くらべ
海
七つの子
われは海の子
牧場の朝
叱られて
夕やけこやけ
冬の夜
たきび
冬景色

飯沼 信義・平吉 毅州 編曲

高野辰之 詩／岡野 貞一 曲／飯沼 信義 編曲
喜志邦三 詩／内田 元 曲／平吉 毅州 編曲
海野 厚 詩／中山 晋平 曲／平吉 毅州 編曲
文部省唱歌／平吉 毅州 編曲
野口雨情 詩／本居 長世 曲／飯沼 信義 編曲
文部省唱歌／飯沼 信義 編曲
作詩者不詳／船橋 栄吉 曲／飯沼 信義 編曲
清水かつら 詩／弘田 竜太郎 曲／平吉 毅州 編曲
中村雨紅 詩／草川 信 曲／飯沼 信義 編曲
文部省唱歌／平吉 毅州 編曲
巽 聖歌 詩／渡辺 茂 曲／平吉 毅州 編曲
文部省唱歌／飯沼 信義 編曲

指揮：永井 宏
ピアノ：江本 裕美

出演者プロフィール

指揮者

永井 宏 ながい ひろし



1953年、横浜に生まれる。

国立音楽大学卒業・同大学院修了（ピアノ専攻）。

学部在学中に東京文化会館推薦音楽会に出演したのを皮切りにピアニストとしての活動を始め、ソロ、室内楽、伴奏など多方面にわたり全国各地のコンサート、放送などで活躍。一方、ピアニストとしての枠を自然に壊して始まった指揮活動も、長年にわたるコレペティチュア経験をもとに多岐におよび、なかでも声楽付き管弦楽曲の分野では他の追従を許さない成果をあげている。

ソリスト

ソプラノ

盛田 麻央 もりたまお



国立音楽大学卒業、同大学院修士課程フランス歌曲コース修了。二期会オペラ研修所第52期マスタークラス修了。修了時に優秀賞及び奨励賞受賞。パリ・エコール・ノルマル音楽院及びパリ国立高等音楽院修士課程を満場一致の最優秀の成績で卒業。第17回日仏声楽コンクール第1位及び竹村賞受賞。第13回東京音楽コンクール第2位、第33回飯塚新人音楽コンクール第2位、第8回エレナ・オブラストヴォヴァ国際オペラコンクール第3位など数々のコンクールで入賞。オペラでは「フィガロの結婚」スザンナ、「魔笛」パミーナ、「ジョンニ・スキッキ」ラウレッタ、「ヘンゼルとグレーテル」グレーテル、「ハムレット」オフィーリア、「椿姫」ヴィオレッタ、「トゥーランドット」リュウ、などを演じる。二期会本公演「ドン・ジョバンニ」にツェルリーナ役で出演。ソリストとしては、ベートーベン「第九」、モーツァルト「ハ短調ミサ」、ブラームス「レクイエム」、ヘンデル「メサイア」などで出演。二期会会員。

メゾソプラノ

斉藤 真歩 さいとう まほ



神奈川県出身。国立音楽大学音楽学部演奏学科声楽専修卒業、同大学院音楽研究科修士課程声楽専攻ドイツ歌曲コース修了。大学院に首席で入学し、奨学生に選ばれる。学内選抜により、国立音楽大学卒業演奏会、同大学院新人演奏会に出演。多摩フレッシュ音楽コンサート2015優秀賞（2位）受賞。第33回ソレイユ音楽コンクール入選。二期会オペラ研修所第60期予科を首席で修了、奨励賞を受賞。現在、同研修所第60期本科に在籍。これまでに声楽を、富樫樹、森郁恵、長島剛子の各氏に師事。

テノール

小林 祐太郎 こばやし ゆうたろう



国立音楽大学卒業。国立音楽大学大学院修了。二期会オペラスタジオマスタークラスを優秀賞で修了。モーツァルト没後200年記念国際声楽コンクール入選。97年新国立劇場開場記念公演「建」に出演。文化庁派遣芸術家在外研修員としてイタリアにて研鑽を積む。

自身の演奏活動とともに、声楽指導・数多くの合唱団の指導・指揮にあたり、その指導力には定評がある。声質は、日本では貴重なリコスピンド、近年は「椿姫」「仮面舞踏会」「カルメン」「蝶々夫人」「魔笛」「夕鶴」「こうもり」等々 プリモテノールとして成果をあげている。オペラ作品のみならず、「レクイエム」(ヴェルディ&モーツァルト)・「第九」(ベートーヴェン)等々多くの作品において、ソリスト及び指導者として、高い評価を得ている。

大好評のロングラン コンサートシリーズに、「名曲はゆりの香り」があり、2016年には10年目を迎える。また、ヴァチカン教皇庁公認の日伊文化交流演奏会に於いては、20年以上にわたり、合唱指導・指揮・独唱等々尽力し、その功績が認められ、文化功労者友好章を授与され、2016年3月20日には、日伊国交150周年 文化交流特別演奏会に招聘され、トスカーナ

州モンテネーロ大聖堂にて企画制作・出演する事が決定している。この演奏会は、去る2015年12月に在イタリア日本大使館より正式に連絡があり、～日本イタリア国交150周年公式事業～に認定され、今後の日伊の文化交流に大きな功績を残している。現在、二期会会員・日本演奏連盟会員。玉川大学非常勤講師。ヴォーチェドロ主宰。混声合唱団カラーレグロリア東京・府中市第九を歌う会合唱団・女声合唱団シング常任指導者。 公式ホームページ：<http://www.kobayashi-yutaro.com>

バス・バリトン

狩野 賢一 かのう けんいち



国立音楽大学卒業、同大学院声楽専攻首席修了。二期会オペラ研究所修了。第9回藤沢オペラコンクール奨励賞。パッハ、モーツァルト、ベートーヴェンを中心に様々な宗教作品のソリストを務める他、《第九》では東フィルや大フィルと共演。また2015年9月にはセイジ・オザワ松本フェスティバル「子どものための音楽会」でバリトンソロを務め、ロームシアター京都の竣工式で小澤征爾指揮のもとバリトンソロを務める。《ドン・ジョヴァンニ》レポレッロでオペラデビュー後、文化庁委託人材育成オペラ《魔笛》ザラストロ、小澤征爾音楽塾特別演奏会《蝶々夫人》ボンゾ、《フィガロの結婚》バルトロ、東京二期会《スペイン時間》イニーゴ、《バルジファル》聖杯騎士Ⅱ、《ホフマン物語》ルーテル、《魔笛》僧侶Ⅰ、東京・春・音楽祭《マイスタージンガー》フォルツ、日生劇場《フィデリオ》囚人Ⅱ、《アイナダマール》教師、新宿区民オペラ《ドン・カルロ》フィッポ等を演ずる。二期会会員。

ピアニスト

江本 裕美 えもと ひろみ



国立音楽大学音楽学部器楽学科、ピアノ専攻卒業。岩部能理子、駒沢とみ子、故アンリエット・ピュイグ・ロジェの諸氏に師事。学生時代より、歌曲・オペラの伴奏法や、室内楽などアンサンブルの勉強を始め、卒業後も伴奏者として、学内演奏会、同大学院演奏会他、多くのコンサートやコンクールに出演。合唱団との共演も多い。現在、同大学の嘱託伴奏者を務めるかわら、多くの歌手、合唱団の伴奏を手がける。

管弦楽

コンツェントゥス・ムジクス東京

コンツェントゥス・ムジクス東京(CMT)は、ピアニストとして、また、管弦楽・オペラ・合唱の指揮者として、枠を超えた活躍を続ける永井宏の類い希な才能と音楽性に共鳴する、若い音楽家を中心に結成された、声楽と器楽のプロ・アンサンブルである。

2000年12月1日、紀尾井ホール(東京・四ッ谷)における結成記念G.F.ヘンデル「メサイア」演奏会を開催、その演奏会に初めて接した聴衆・各関係者各位からアンサンブルの妙味を絶賛され、そのレベルの高さに驚嘆の声が寄せられた。この団体の名称である"Concentus Musicus"とはラテン語で「音楽の共鳴・調和」であり、ひいては「音楽的に共鳴する仲間・集団」をも意味する。音楽監督である永井をはじめCMTメンバーの観点は常に「演奏」にあり、作曲家や作品に対する深い愛情と共感、そして、それを実現させる豊かな技術を以って「演奏」することを旨としている。真摯な「演奏」への取り組みが、作曲家や作品についた垢を削ぎ落として本来の姿に立ち返ろうとする【ルネサンス(復興)】をねらいとしていることが最大の特徴である。結成以来CMTのレパートリーは歴史の流れをふまつつ古典を現代に活かす意味からも、よりクラシカルな作品と作曲家を中心に据えながら、多岐にわたり、子供から大人まで様々な世代・形態の人々に応じた演奏会やスクールコンサートを企画、演奏を展開している。

Kyrie

Kyrie eleison
Christe eleison
Kyrie eleison

主よ、あわれみください
キリストよ、あわれみください
主よ、あわれみください

Gloria

Gloria in excelsis Deo.
Et in terra pax hominibus bonae voluntatis.
Laudamus te, Benedicimus te,
Adoramus te, Glorificamus te,
Gratias agimus tibi propter magnam gloriam tuam.
Domine Deus, Rex caelestis, Deus Pater omnipotens.
Domine Fili unigenite, Jesu Christe.
Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.
Qui tollis peccata mundi, miserere nobis.
Qui tollis peccata mundi, suscipe deprecationem nostram.
Qui sedes ad dexteram Patris, miserere nobis.
Quoniam tu solus Sanctus, tu solus Dominus,
tu solus Altissimus, Jesu Christe.
Cum Sancto Spiritu in gloria Dei Patris. Amen.

非常に高いところ、天では神に栄光がありますように
地では善意の人々に平和がありますように
私たちは、あなた、主を誉め、讃え、
拝み、崇めます
私たちは、主の大いなる栄光のゆえに、主に感謝します
神である主よ、天の王よ、全能の父である神よ
一人子として生まれた息子である主よ、イエス・キリストよ
神である主よ、神の子羊よ、父なる神の息子よ
世の罪を取り除かれる方、主よ 私たちをあわれみください
世の罪を取り除かれる方、主よ 私たちの願いを聞き入れてください
父である神の右に座しておられる方、主よ 私たちをあわれみください
と願うのは、主、あなたが唯一の聖者 あなたが唯一の主、
あなたが唯一の至高の方だからです、イエス・キリストよ
聖霊とともに、父なる神の栄光のうちに アーメン

Credo

Credo in unum Deum.
Patrem omnipotentem, factorem caeli et terrae,
visibilium omnium, et invisibilium.
Et in unum Dominum Jesum Christum,
Filius Dei unigenitum.
Et ex Patre natum ante omnia saecula.
Deum de Deo, lumen de lumine, Deum verum de Deo vero.
Genitum, non factum, consubstantialem Patri :
per quem omnia facta sunt.
Qui propter nos homines,
et propter nostram salutem descendit de caelis.
Et incarnatus est de Spiritu Sancto
ex Maria Virgine : Et homo factus est.
Crucifixus etiam pro nobis :
sub Pontio Pilato passus, et sepultus est.
Et resurrexit tertia die, secundum Scripturas.
Et ascendit in caelum: sedet ad dexteram Patris.
Et iterum venturus est cum gloria,
judicare vivos et mortuos :
cujus regni non erit finis.
Et in Spiritum Sanctum, Dominum, et vivificantem :
qui ex Patre Filioque procedit.
Qui cum Patre et Filio simul adoratur, et conglorificatur:
qui locutus est per Prophetas.
Et unam sanctam catholicam et apostolicam Ecclesiam.
Confiteor unum baptisma in remissionem peccatorum.
Et expecto resurrectionem mortuorum.
Et vitam venturi saeculi. Amen.

私は唯一の神を信じます
全能の父なる神を、天と地と
全ての見えるもの、見えないものの創り主を
そして私は信じます、唯一の主、イエス・キリストを
神の一人子として生まれた息子を
そして、すべての時代の前に父なる神から生まれた方を
神よりの神を、光よりの光を まことの神よりのまことの神を
創られずして生まれ、父なる神と一体となっている方を：
その方によって全てのものは創られました
その方は私たち人類のために、
私たちの救済のために天から降りてこられました
そして、その方は聖霊によって
乙女マリアから肉体を受け、人間となりました
その方はさらに、私たちのために十字架につけられ、
ポンツィオ・ピラトの下で苦しみを受け、葬られました
そして、その方は聖書にあるように三日目に復活されました
そして、天に昇り、父なる神の右に座して居られます
そして、ふたたび栄光とともに来られます
生きている者たちと、死んだ者たちを裁くために：
その方の王国には終わりはありません
そして、私は信じます、主である聖霊を、生命の与え主を
その聖霊は父なる神とその息子から出ています
聖霊は、父なる神と息子とともに崇拝され、
讃えられます：聖霊は預言者を通して語られました
そして、私は信じます、唯一の聖なるカトリックの使徒の教会を
私は、罪の赦しのための唯一の洗礼を認めます
そして、私は死者たちの復活を待ち望みます
そして来世の生命を アーメン

Sanctus

Sanctus, Sanctus, Sanctus Dominus Deus Sabaoth.
Pleni sunt caeli et terra gloria tua.
Hosanna in excelsis.

神聖な、崇高な、崇めるべき 万軍の神である主よ
天と地はあなた、主の栄光に満ちています
天の高いところにおいて、オザンナ

Benedictus

Benedictus qui venit in nomine Domini.
Hosanna in excelsis.

主の御名によって来る者は祝福されますように
天の高いところにおいて、オザンナ

Agnus Dei

Agnus Dei, qui tollis peccata mundi: miserere nobis.
Agnus Dei, qui tollis peccata mundi: dona nobis pacem.

世の罪を取り除きくださる神の子羊、主よ、私たちをあわれみください
世の罪を取り除きくださる神の子羊、主よ、私たちに平和をお与えください

【翻訳：寺寄裕一（バス）】

歌詞

混声合唱とピアノのための「つぶてソング」第1集

和合 亮一 詩

1 あなたはどこに

あなたはどこに居ますか。
あなたの心は風に吹かれていますか。
あなたの心は壊れていませんか。
あなたの心は行き場を失っていませんか。

命を賭けるということ。
私たちの故郷に、
命を賭けるということ。
あなたの命も私の命も、
決して奪われるためにあるのではないということ。

*2011年3月18日

2 フルサト

フルサト、故郷、
離れていく人、人、人、
さようなら、
故郷は私たちの
言葉にあるよ、
想いにあるよ、
空にあるよ、
手の中にあるよ、
だから手を振るんだよ、
さよなら、さよなら。

フルサト、故郷、
離れていく人、
私は
少年を見送った、
壊れた大きな屋根の、
コープマート前の駐車場で、
少年は街に残りたかった、
寂しい気持ちで、手を振る、
さよなら、さよなら。

*2011年4月9日

3 放射能

放射能が降っています。
静かな静かな夜です。

この震災は何を私たちに教えたのか。
教えないものなぞ無いのなら、
なおさら何を信じればよいのか。

屋外から戻ったら、
髪と手と顔を洗いなさいと教えられました。
私たちには、それを洗う水など無いのです。

放射能が降っています。
静かな静かな夜です。

*2011年3月16日

4 燃えあがろう

無念に死に行く者たちのため。
泣きながら、
震えながら、
喜びながら、
燃えあがろう。

あなたは、誰よりもあなただ。
僕は、誰よりも僕だ。
明けない夜は無い。

*2011年3月19日～20日

5 許せるか、あなたは

許せるか、あなたは。この怒りを。

許せるか、あなたは。この時を。

許せるか、あなたは。この怒りを。

怒りは怒りを許せるのか。

悲しみは悲しみを愛せるのか。

人よ、(怒りよ) 原子力よ、宇宙よ、
封鎖された駅よ、失われた卒業式よ、
余震だ。

*2011年3月20日

和合亮一『詩の礫』から

【歌詞としての構成と標題、()内は作曲者による】

6 誰もいない福島

誰もいない 福島 静かな雨の夜
静かなやさしさは 私たちの心にある
冷たい風が
公園のブランコを かすかに動かして
競争する(きそう) ようにして 錆びた ブランコを漕ぐ

誰もいない 福島 静かな雨の夜
静かないつくしみは 私の母の心の奥にある
雨に濡れた道路の先を急ぐ
小さな沼は
豪雨の中で じっと黙っている

誰もいない 福島 静かな雨と朝焼け
雨が上がる

静かな「静けさ」が 光に包まれていく
産声が 大きく 強く たくましい朝だ

*2011年3月21日

歌詞

混声合唱による 日本の四季 「夕やけこやけ」

春の小川

高野辰之 作詩

春の小川は さらさら流る
岸のすみれや れんげの花に
においめでたく 色うつしく
咲けよ咲けよと ささやく如(ごと)く

春の小川は さらさら流る
蝦(えび)やめだかや 小鮒(こぶな)の群に
今日も一日 ひなたにいでて
遊べ遊べと ささやく如く

春の小川は さらさら流る
歌の上手よ いとしき子ども
声をそろえて 小川の歌を
うたえうたえと ささやく如く

〈大正元(1912)年〉

春の歌

喜志邦三 作詩

ラ、ラ、紅い花束 車に積んで
春が来た来た 丘から町へ
すみれ買いましようあの花売の
かわい瞳に 春のゆめ

ラ、ラ、青い野菜も市場に着いて
春が来た来た 村から町へ
朝の買物 あの新妻(にいづま)の
かごにあふれた 春の色

ラ、ラ、鳴けよちろちろ巢立(すだち)の鳥よ
春が来た来た 森から町へ
姉と妹の あの小鳥屋の
店のさきにも 春の歌

ラ、ラ、空はうららかそよそよ風に
春が来た来た 町から町へ
ビルの窓々 みな開かれて
若いころに 春が来た

〈昭和12(1937)年〉

背くらべ

海野 厚 作詩

柱のきずは おととしの
五月五日の 背くらべ
粽(ちまき)たべたべ 兄さんが
計ってくれた 背のたけ
きのうくらべりゃ 何のこと
やっと羽織の 紐(ひも)のたけ

柱に凭(もた)れりゃ すぐ見える
遠いお山も 背くらべ
雲の上まで 顔だして
てんでに背伸(せのび) していても
雪の帽子を ぬいでさえ
一(いち) はやっぱり 富士の山

〈大正8(1919)年〉

海 文部省唱歌

松原遠く消ゆるところ
白帆の影は浮ぶ
干網 (ほしあみ) 浜に高くして
鷗 (かもめ) は低く波に飛ぶ
見よ昼の海
見よ昼の海

島山 (しまやま) 闇に著 (しる) きあたり
漁火 (いさりび) 光淡 (あわ) し
寄る波岸に緩 (ゆる) くして
浦風軽 (かる) く沙 (いさご) 吹く
見よ夜の海
見よ夜の海

<大正 2 (1913) 年>

【注】沙 : 小さい石、砂

七つの子 野口雨情 作詩

からす なぜ鳴くの
からすは山に
かわいい七つの
子があるからよ
かわい かわいと
烏 (からす) は鳴くの
かわい かわいと
鳴くんだよ

山の古巣へ
行って見てごらん
円 (まる) い眼をした
いい子だよ

<大正 10 (1921) 年>

われは海の子 文部省唱歌

われは海の子 白浪 (しらなみ) の
騒ぐ磯辺 (いそべ) の 松原に
けむりたなびく 苫屋 (とまや) こそ
わが懐しき住 (すみか) なれ

生れてしおに 浴 (ゆあみ) して
浪を子守の 歌と聞き
千里寄せる 海の気を
吸いてわらべとなりけり

高く鼻つく いその香に
不断 (ふだん) の花の かおりあり
なぎさの松に 吹く風を
いみじき楽 (がく) と われは聞く

丈余 (じょうよ) のろかい 操りて
行手定めぬ 浪 (なみ) まくら
百尋千尋 (ももひろちひろ) 海の底
遊びなれたる 庭広し

<明治 43 (1910) 年>

【注】苫屋 : 苫ぶきの粗末な家

丈余 : 1丈 (約 3m) 余り

尋 : 両手を左右に伸ばした長さ (約 1.8m)

牧場の朝

作詩者不詳
(定説では杉村楚人冠 作詩)

ただ一面に立ちこめた
牧場の朝の霧の海
ポプラ並木のうっすり
黒い底から 勇ましく
鐘が鳴る鳴る かんかんと

もう起き出した小舎小舎 (こやこや) の
あたりに高い人の声
霧に包まれ あちこちに
動く羊の幾群 (いくむれ) の
鈴が鳴る鳴る りんりんと

今さし昇る日の影に
夢からさめた森や山
あかい光に染められた
遠い野末に 牧童の
笛が鳴る鳴る びいびいと

<昭和 7 (1932) 年>

叱られて

清水かつら 作詩

叱られて 叱られて
あの子は町まで お使いに
この子は坊やを ねんねしな
夕べさみしい 村はずれ
こんときつねが なきゃせぬか

叱られて 叱られて
口には出さねど 目になみだ
二人のお里は あの山を
越えてあなたの 花のむら
ほんに花見は いつのこと

<大正 9 (1920) 年>

夕やけこやけ

中村雨紅 作詩

夕焼小焼で 日が暮れて
山のお寺の 鐘がなる
お手々つないで 皆かえろ
鳥と一緒に 帰りましょう

子供が帰った 後からは
円 (まる) い大きな お月さま
小鳥が夢を 見る頃は
空にはきらきら 金の星

<作詩 : 大正 8 (1919) 年>

<作曲 : 大正 12 (1923) 年>

冬の夜

文部省唱歌

燈火 (ともしび) ちかく衣 (きぬ) 縫う母は
春の遊びの楽しさ語る
居並ぶ子どもは指を折りつつ
日数かぞえて喜び勇む
囲炉裏火 (いろりび) はとろとろ外は吹雪

囲炉裏の端 (はた) に縄 (なわ) なう父は
過ぎいっさの手柄を語る
居並ぶ子どもはねむさ忘れて
耳を傾けこぶしを握る
囲炉裏火はとろとろ外は吹雪

〈明治 45 (1912) 年〉

【注】いっさ：日清或いは日露戦争のこと

こがらし こがらし
さむいみち
たきびだ たきびだ
おちばたき
「あたらうか」
「あたらうよ」
そうだしながら
あるいてく

〈昭和 16 (1941) 年〉

たきび

巽 聖歌 作詩

かきねの かきねの
まがりかど
たきびだ たきびだ
おちばたき
「あたらうか」
「あたらうよ」
きたかせ びいふう
ふいている

さざんか さざんか
さいたまち
たきびだ たきびだ
おちばたき
「あたらうか」
「あたらうよ」
しもやけ おててが
もう かゆい

冬景色

文部省唱歌

さ霧 (ぎり) 消ゆる湊江 (みなとえ) の
舟に白し 朝の霜
ただ水鳥の声はして
いまだ覚めず 岸の家

烏啼 (な) きて木に高く
人は畑に麦を踏む
げに小春日 (こはるび) ののどけしや
かえり咲の花も見ゆ

嵐吹きて雲は落ち
時雨 (しぐれ) 降りて日は暮れぬ
若 (も) し燈火 (ともしび) の漏れ来ずば
それと分かじ 野辺の里

〈大正 2 (1913) 年〉

【注】分かじ：分からない

日本音楽著作権協会 (出)
許諾第 1600193-601 号

「夕やけこやけ」で・・・

日本の四季「夕やけこやけ」は、いずれも幼い日から耳に馴染み、うたい慣れた、なつかしい歌ばかり。あまりになれて、その意味など考える間なく歌い過ごしてきた気がする。

今、改めてこれらの歌詞を見ると、その内容の豊かさに気付く。

その多くにうたわれているのは、自然への賛歌。あたたかな感動をもって捉えられた自然は、絵になって風景が浮かび上がる。

その中に、いきいきと遊ぶ子供ら。働く人々の姿。

それらを表すための言葉が美しい。語彙が豊富。

すぐには解らない難しい言葉もちらほら出てくる歌詞を、前時代的と片付けてしまうのはあまりにもったいない。

〈現在、私たちの接する歌の多くはワカリヤスイ。言葉を換えて言えば、やさしい使いなれたありふれたことばでうたわれている。〉

言葉が古いのではない。現代の私達が使いこなしていないだけ。忘れられた、宝のようなこれらのことばを深く味わいながら歌う時、新しい感動に出会う。

「冬景色」の最後の歌詞、「若し燈火の漏れ来ずば それと分かじ野辺の里」をうたう時、何故か次の和歌を思い出す。

駒とめて袖うちはらふ陰もなし佐野のわたりの雪の夕暮れ - 定家 -

練馬区民合唱団名簿（平成28年1月現在）

指揮者：永井 宏

副指揮者：清水 新

ピアノ伴奏：江本 裕美

ボイストレーナー：永澤 麻衣子
：牛津 佐和子



第23回定期演奏会
練馬文化センター 大ホール

ソプラノ

朝倉 節子	浅見 律子	石川 順子	上田 富美子	太田 浩子
小山内 恵子	恩田 真弓	加藤 輝乃	◇☆ 幸治 純子	♡ 高山 美恵子
斎藤 浩子	島崎 尚美	田口 啓子	團 純子	保科 直子
山下 由美子				
有賀 直子	生田 澄江	石渡 恕子	♡ 岩田 理恵子	遠藤 芳子
大屋 良子	佐藤 田鶴子	白井 雅江	鈴木 貞子	住田 康子
田中 邦子	☆ 富田 美和	那須 栄子	長谷川 美恵子	塹江 千恵
松本 稔恵	村上 智恵子	山西 律子		

アルト

荒川 葉子	今井 圭子	植田 マチ子	宇佐美 千代子	大森 岑子
岡田 のぶよ	神村 由起	菊浪 靖子	久保田 たか子	古塚 桂子
小林 則子	♡ 杉浦 順子	☆ 十河 靖代	日浅 美由紀	若井 加恵
和田 博子				
☆ 石川 真子	岩本 文子	加藤 はるみ	○♡ 草道 恵美子	清水 敦子
下平 喜代子	鈴木 篤子	鈴木 節子	近原 幸子	富永 チカ子
豊島 閔子	三井 恵子	本橋 たつ江		

テノール

浅見 登美夫	岩澤 昭彦	海老原 俊夫	♡ 笠原 勲	小林 信久
土井 幸夫	◇ 馬場 順一	山内 健生		
○ 江口 汎	岡崎 文雄	京極 馨夫	小林 芳夫	☆ 中村 尚司
長谷川 謙二	山本 昌生	♡ 若松 正		

バス

浅見 昇	☆ 伊藤 勲	伊藤 正文	岩田 一郎	北川 文珠二郎
◇ 國吉 英助	今野 晴人	桜井 順一	塩沢 宏夫	瀬沼 正一
◇ 武市 則昭	寺寄 裕一	三澤 了		
岡田 幸雄	加藤 忠晴	工藤 泰興	☆ 塩野 浩伸	菅 伸太郎
♡ 滝野 豊	土 幸一朗	土屋 彦治	◎ 鍋田 隆章	松川 一夫
◇ 横山 方一				

(注) 記号：役名 ◎団長 ○副団長 ◇役員 ♡パートリーダー ☆パートマネージャー

団員募集のお知らせ

第24回定期演奏会終了後、団員募集受付をいたします。

私たちと一緒に歌いませんか？

詳しい日程等お問い合わせは

連絡先： 江口 Tel: (03) 3999-6227

ホームページ：<http://www.nerima-kumin-chor.info>

練習日

毎週土曜日18時から21時までで、演奏会前には臨時練習もあります。

練習会場

生涯学習センター（旧練馬公民館、西武池袋線・大江戸線、練馬駅下車徒歩7分）を主として利用していますが、そのほかに以下の区内の施設でも練習しています。

練馬第三小学校（西武池袋線 中村橋駅下車）

光が丘区民センター（大江戸線 光が丘駅下車）

豊玉小学校（西武池袋線・大江戸線 練馬駅下車）

会費

入団費 1,000 円 団費 4,000 円 / 月

その他臨時費用（楽譜、衣装代など）

主催：練馬区民合唱団

後援：練馬区合唱連盟